

調布「憲法ひろば」

WEBサイト <http://www.geocities.jp/chofu9jou/index.html>

第12号

9月26日
2005年

発行=憲法「九条の会」調布のひろば

〒182-8511 調布市国領町 2-5-15
あくろす2階 市民活動支援センター内
メールボックス6番
FAX 番号 : 0424-83-1566 大野気付

E-Mail : chofu9jou@yahoo.co.jp

学童疎開--9歳の戦争体験



山崎瑞江さん

冒頭での発題は「えなかつたお父さ
深大寺元町にお住んのこと。国民学校
まいの山崎瑞江さん三年生になると「積
願いしました。一名で押しつけられ
歳三ヶ月の時に応た学童疎開のこと。
召され、二度と会ひもじくて、ハミガ
こと。新憲法のも
とで六年生になつ
て「桜のようにぐ
んぐん伸びて新日
本建設に力をいれ
る」と作文に書い
た時の高揚した気
持ち。山崎さんは
静かに、力強く平
和への思いを語つ
てくれました。

それは「ひもじさの記憶」です



司会 山崎さん
の甥である世話
の富永信哉さん
（左写真）が受け
持ちました。



若者たちの「ピースウルズ」の挑戦
平和サークル

正岡義之（上左）・隆実さん（上右）
と木高愛蔵さん（下）

私たちのことばで戦争を語り継ぎたい

「ピースウルズ」とは、平
和（ピース）と魂（ソウル）
の複数形（s）と「話し始
めた正岡義之さんと弟の隆
実さん。「祖母が東京大空襲
を話してくれたことがキツ
カケ」「両親も家族旅行など
の折に原爆や特攻隊やひめ
ゆり部隊の事実に触れさせ
てくれました」「高校生平和
ゼミで同じ思いを持つ友達
ができました」「東京大空襲
の話をお聴いた画家のおのざ
わ・さんいちさんが亡くなつ
た時、あの時生きていた人が
現存している内にできるだ
け多く話を聴き、これを私た
ちのことばで語り継がねば
と思いました。体験者の話
を聴くと「君らは」「君らは
どう言うヤカラか？」と疑わ
れたり、聴けば聴くほど、一
人ひとりが伝えたい思いが
違うことになつたり、ひ
と苦勞ありました。戦後60
年の今年三月、六本木ヒルズ

世代を超えた連帯の拍手

で「東京大空襲展」をやり六
日間で一万人を超える来場
者。やつと人間同士の繋がりが
できたと感じています。
木高さんは、「戦争は恐ろ
しく悲惨、起きた戦争は終
らないこと、『国民保護法』
は『国家総動員法』と同じだ
という実感を体験者から学
びました」「戦争は今を生き
る私たちの問題、未来にも繋
がる問題」との思いを語り、
連帯の拍手に包まれました。



10月16日（日）13時半～
国領・あくろす3階

次回は竹内静代さんが語ります

東京大空襲の話

第9回「憲法ひろば」は10月16日に開催します。
深大寺北町にお住まいの竹内静代さん（右写真中央の方です）の東京大空襲の体験を聴きます。誘い合っ
てご参加を！

●その次の集まりは12月3日、「父と暮せば」上映会です。入場券は世話人までどうぞ！

